

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 龍ヶ崎ニュータウン夏祭り【松葉小学校区協議会】

★活動内容

ニュータウン入居初年度（1981 年度）以来、住民の親睦を目的に自治会・団体のご協力と事業者の皆様からの協賛金を得て、子ども神輿、盆踊り、抽選会や模擬店など、地域住民参加型の祭りを開催しています。

★活動スケジュール・プロセス

①実施日時 令和元年 7 月 27 日(日)
午後 4 時 30 分～午後 8 時 30 分

②実施会場 松葉小学校

③来場者 約 1,300 人

④実施内容

a)当日スケジュール

午後 4 時 30 分 開会宣言

午後 4 時 40 分 子ども神輿

午後 5 時 イベント

- ・よさこい踊り
- ・相撲甚句
- ・フラダンス
- ・西馬音内盆踊り
- ・盆踊り
- ・鼓舞太鼓

午後 8 時 お楽しみ抽選会

午後 8 時 30 分 閉会宣言

b)地区で活動する団体・サークルによる模擬店（10 店舗）

★活動の成果・課題

毎年続けてきた事業であり、子どもたちも含め多くの住民の交流の機会となったこと、地域の住民・団体・事業者の協力関係づくりの機会となったことなどで、大きな成果があったと自負しています。

★苦労した点・工夫した点

模擬店は、当初から外部に頼らず地区の住民・サークルが運営するとしたこと。

会場設営にあたる役員・住民・団体の負担を考慮し、リース会社を利用することへ変更したことなどがあげられます。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 八原夏祭り樽神輿製作事業【八原まちづくり協議会】

★活動内容

毎夏 8 月初めの恒例行事としてのたつのこステージで行われる「八原夏祭り」事業は、協議会の行事の中でもメインに位置づけされる大事業であり、年々地域の夏の風物詩として認知される行事になってきている。そのお祭りの主役である「神輿」は、商店街にある下町から借りていたが、八原独自の神輿を持ちたいという熱い想いと、参加した子どもたちに大人になっても心に残る「お祭り」にしたいという想いを込め、協議会メンバーで樽を使った「こども神輿」製作にとりかかることになった。設計図から起こして約 3 カ月、主力メンバー約 10 人で、完成までこぎつけた。その間、一口 500 円のご浄財（寄付金・協賛金）を募り、製作費に充てた。寄付してくれた方の名前を目札に記載し神輿に取り付けた。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 30 年 4 月下旬、神輿製作集団結成
- ②5 月広報紙「やはら 18 号」紙面にて「樽神輿製作発表」を行い、協賛金を募る。
- ③5 月製作開始～7 月完成、7 月 16 日八原小学校に展示。その後、コミセンにて展示。
- ④お祭り当日、たつのこステージにてお披露目⇒出発ステージ回り・龍ヶ岡公園内を練り歩く。その様子を「やはら 19 号」にて報告。お祭り終了後は倉庫にて保存。
- ⑤令和元年 7 月、八原オリジナルの法被を製作。
- ⑥令和元年 8 月、八原小学校に夏祭りの号外を配布し、紙面に神輿の担ぎ手募集の記事掲載。

★活動の成果・課題

製作過程では、子ども心に戻った大人たちが、毎週時間を割いて真剣に取り組み、完成をめざした。その間の連帯感や親睦感、出来上がった時の達成感を共有し絆が強まったと思う。また、お祭りの会場では視覚的にその存在感を来場者に訴え、盛り上がりのきっかけになった。

神輿担ぎの体験のない子どもたちに法被を着てもらい、公園内を練り歩いた事で、お祭りのメインイベントになり、担ぐ子どもたちの高揚した笑顔を見て、見守る大人にも笑顔がこぼれた。参加型の行事にその場にいた人達の一体感が生まれた。

これからもお祭りの「顔」として地域の人に認知され、愛される「樽神輿」になる為に、活動を続けていきたい。

★苦勞した点・工夫した点

<樽の入手>

市内の大きな酒屋 3～4 軒に問合せしたが無く、結婚式場 3 軒目で入手。

<設計図>

どのような神輿にしたいか、樽神輿の画像収集をしてデザインを決めた。樽神輿には珍しい屋根の取り付けと台座作り、設計者に恵まれ順調に進んだ。

<大工仕事>

屋根の上の鳳凰製作には苦勞したが、溶接が行える会員がいた事も恵まれた。また、作業場と保管場所を提供してくれる会員がいた事も成功した要因になった。完成品には、提灯と電飾を施した。

<協賛金集め>

地域の皆様の協力で、赤字にならずに完成させることができた。



問合せ先：八原コミュニティセンター（八原まちづくり協議会事務局）TEL：0297-64-8246

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ わくわくサマーフェスティバル【久保台小学校区わくわく協議会】

★活動内容

久保台小学校区に居住する地域住民のコミュニケーションの場として、子どもからお年寄りまで記憶に残る祭りにし、安全安心で明るく住みよい街づくりを推進するために行う。

★活動スケジュール・プロセス

- ①3月の役員会で次期わくわくサマーフェスティバルの開催日を決定。
- ②5月総会でわくわくサマーフェスティバルの案件承認。
- ③6月の臨時役員会で企画書を元に実行委員会設立。
- ④6月下旬実行委員会で企画書の詳細を検討。また、祭りに使用する材料を手配。
- ⑤7月下旬に委員(役員、各委員会メンバー)を招集し、役割分担を決める。
- ⑥8月、当日朝から準備開始。午前中で準備はほぼ完了。
- ⑦午後4時から「わくわくサマーフェスティバル」開始。



★活動の成果・課題

- ・今まで祭りはコミセンで実施していた。前年は学校とコミセンの2会場にしたため、人の流れが分散してしまった。今回は小学校校庭で一堂に会する事ができた。
- ・地区の方、また、地区から出ていった子どもたちも参加し、一体感が出た。
- ・協議会や自治会、小学校のPTAの人たちが協力して祭りを盛り上げていただいた。
- ・実施した日が8月3日で、その日の最高気温が35度を超えており、スタッフが熱中症になりかけた為、時期の検討が必要になった。
- ・夕方4時でも夏は日差しが強いので、テントの数をもっと多く必要だった。

★苦勞した点・工夫した点

- ①夜7時半に校庭で花火を上げるため、音と煙の流れを想定し、近くのお宅に事前に案内を配った。
- ②小学校の校庭を借りる場合は電源が一カ所しかなかった。小学校の電源を借りるため、教頭先生に出動していただいた。
- ③祭りには高齢者も参加しているので、気分が悪くなった人がいる場合を想定し、1教室借りた。



問合せ先：久保台コミュニティセンター（久保台小学校区わくわく協議会事務局）TEL：0297-65-4788

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例④ しろのさと秋祭り【城ノ内コミュニティ協議会】

★活動内容

城ノ内コミュニティ協議会では、地域住民の交流を図ることを目的として、多くの方に参加して頂けるように「しろのさと秋祭り」を実施しています。輪投げ、玉入れ、パン食い競争などの競技に参加することによって親睦を深めるものです。

★活動スケジュール・プロセス

- ①7月中旬 第1回しろのさと委員会にて開催を決定。内容・スケジュールの検討。
- ②8月下旬 第2回しろのさと委員会にて内容・スケジュールの決定。
- ③9月中旬 協議会全体会議開催。各担当を決め、準備開始。広報紙で開催を周知。
- ④10月上旬 各担当ごとに最終確認。
- ⑤前日準備、会場への搬入

★活動の成果・課題

<成果>

- ・協議会をはじめ、各地域から幅広い世代の方に参加して頂くことができて、親睦を深めることができた。

<課題>

- ・競技内容がワンパターン化してきているので、見直してみてもいいという意見もあった。
- ・活動の担い手不足。若い世代など、これまで関わりが少なかった人に対して、参加をどう促していくか。

★苦勞した点・工夫した点

- ・全体会議が1回しかないなので、競技内容も含め共有するのは難しい。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ センターまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西コミュニティセンターを利用しているサークルの年に一度の発表会。手芸・絵手紙などの展示作品や、エアロビ、コーラスなどの発表を2日間行う。

また、近隣の幼稚園、保育園の幼児作品や龍ヶ崎西小児童の作品も掲示する。コミュニティセンター駐車場では、模擬店(焼き鳥・とん汁など)を出し、大盛況となる。来場者をはじめ、前日準備・当日・後片付けの動員数は延べ700人を超える。

★活動スケジュール・プロセス

- ①出展者・出演者の募集。(3カ月前)
- ②各委員会の委員長を通しイベント協力の依頼。(3カ月前)
- ③センターまつり開催の情報を市広報紙「りゅうほー」に掲載。(2カ月前)
- ④社会福祉協議会・市民活動センターへ備品借用依頼。(2カ月前)
- ⑤賄い、模擬店で使用する食材の手配。(2カ月前)
- ⑥出展者・出演者の代表への説明会。(1カ月前)
- ⑦協議会メンバーの役割周知。(1カ月前)
- ⑧前日、パネル設置、会場設営等の準備。
- ⑨当日、プログラムに沿って発表の部の進行、模擬店担当や駐車場整備などを担当。
- ⑩翌日、借用品の返却など後片付け作業。

★活動の成果・課題

- ①地域の年中行事になっている。
- ②幅広い年齢層の方に楽しんでもらうことができる。
- ③メンバーの高齢化が進み、消滅してしまうサークルも出始めており、コミュニティセンターの利用者やサークルをどう増やしていくかが課題。

★苦労した点・工夫した点

毎回作品展示サークルが12～14団体、演技発表サークルが12～15団体あり、作品展示会場の割り振り及び演技発表サークルの時間割の調整が大変。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ RYUとぴあ音頭パレード【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西コミュニティセンターで活動しているダンスサークルメンバーを中心にチームを組み、商店街通りで行われる「RYUとぴあ音頭パレード」に参加する。

★活動スケジュール・プロセス

- ①ダンスサークルメンバーとダンス指導者に参加依頼をする。（3カ月前）
- ②各委員会の協力依頼をする。（3カ月前）
- ③広報紙で参加者を募る。（2カ月前）
- ④賄いメニューの決定。（2カ月前）
- ⑤衣装作成。（2カ月前）
- ⑥振付検討と練習。（2カ月間）
- ⑦当日、協議会協力者は、賄い班と警備班に分かれる。

★活動の成果・課題

- ①事前に十分練習をし、その成果としてほぼ毎年入賞することができている。
- ②参加者の増員が課題。

★苦勞した点・工夫した点

- ①衣装を手作りし、連帯感を持つことができた。
- ②協議会メンバーが踊りの行列に付き添いながらリヤカーで飲料水を運び、踊り子たちの脱水症状を防ぐことができた。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑦ ウォークラリー大会【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区を中心に設定された徒歩コースを、コマ図を頼りに歩き、途中チェックポイントでゲームや設問に挑戦して完歩し、得点を競う大会。

老若男女を問わず、それぞれチームを組んで誰でも参加できるイベント。

★活動スケジュール・プロセス

- ①事前準備マニュアル、当日運営マニュアル作成。（6 カ月～3 カ月前）
- ②コースを設定する。（大会 3 カ月前まで）
- ③設定されたコースを基に通過ポイントのコマ図一覧を作成する。（2 カ月前まで）
- ④各戸配布の広報紙にて参加チームを募集する。（2 カ月前）
- ⑤参加チームの受付。（1 カ月～3 週間前）
- ⑥大会主催側に必要な役割の整理と担当者への割り振り。（2 カ月前まで）
- ⑦賞品類の選定、購入。（1 カ月前まで）
- ⑧警察へ道路使用許可願いの提出。（2 週間前）
- ⑨参加チームの携帯品準備（画板、筆記用具、コマ図一覧 etc.）。（1 週間前まで）
- ⑩前日は会場設営、模擬店準備。
- ⑪当日は開会式、ウォークラリー、表彰式、閉会式を行う。
- ⑫例年、年明け 1 月中旬に開催している。

★活動の成果・課題

- ①例年約 200 人程度の参加があり、地域の娯楽行事として定着している。
- ②模擬店なども出され、盛況を博している。
- ③開催時期が真冬なので、もう少し暖かい時期への変更を検討したい。

★苦労した点・工夫した点

- ①交通安全を確保するため、コースの要所ごとに立哨要員を配置。
- ②運営協力要員を確保するため、地元子ども会や小学校職員にも協力を呼び掛けた。
- ③より多くの子どもたちの参加を促す為、龍ヶ崎西小児童全員に案内のチラシを配布した。



問合せ先：龍ヶ崎西コミュニティセンター（龍ヶ崎西コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-0624

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑧ 日帰りバス旅行【長山前自治会】

★活動内容

日帰りバス旅行で豪華客船での東京湾クルージングと船の科学館見学を計画。

★活動スケジュール・プロセス

- ①4月自治会の総会で今年のバス旅行計画を企画。毎年バス旅行は実施しているが、若い人の参加を増やすため、目的地の調査開始。
- ②7月東京湾クルージングを実施することを自治会役員で決定。事前調査を実施。自治会長がコースを乗船し、内容を確認、資料作成および現地案内の参考とした。
- ③9月協議会にバス旅行の計画書をコミュニティ協議会へ提出し、応援金の申請を行う。
- ④10月に実施。

★活動の成果・課題

- ①いままでは年配者の参加者が多いバス旅行であったが、平成生まれの人も複数人が参加し、若返りの姿が見えた。
- ②船上での美味しいバイキング料理と歌謡ショーにより楽しい一時を過ごすことができた。
- ③船の科学館が見学予定だったが、当日工事のため、閉館していたことから、代わりにフジテレビ局内を見学に変更した。事前調査を出発前でも再度行う必要があった。

★苦勞した点・工夫した点

- ①過去に当自治会のシルバー会でバス旅行を実施してきたが、役員が高齢になり維持できなくなり、平成30年から自治会で活動を継続することとした。この為なるべく若い人に参加してもらうべく、内容を検討した。
- ②参加費用を少なくするため、地域コミュニティ協議会の応援金を活用し、活動費に充当した。

◎募集案内



◎船内での昼食会



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑨ 親子三世代交流餅つき大会【高砂区町会】

★活動内容

町会内の親睦を図りコミュニケーションを深めるために、親子三世代餅つき大会を実施。

★活動スケジュール・プロセス

- ・毎年12月上旬に高砂公民館前の駐車場で実施。
- ・餅つき臼と大人用杵および子ども用杵を用意。このほか焼きそば鉄板等を用意。
- ・社会福祉協議会に行きポップコーン機と、わた菓子機を借用。
- ・11月中旬には全戸配布のお知らせ（回覧板）で周知，参加者は10日前には班長に人数を報告。
- ・駐車場にテントを張り，段ボールを下に敷きブルーシートを敷き座布団を用意。

★活動の成果・課題

- ・長寿会の皆さんと小学生および幼稚園児やその親御さん達が親睦を図れて好評。終了後は「来年も楽しみにしているから」と感謝される。
- ・幼稚園児と親御さんが一緒に和気あいあいと初めて餅つきをして感謝された。
- ・独居老人と新興住宅地の人達の参加が少なく周知伝達方法が今後の課題。
- ・参加した多くの人達は満足し，子どもたちの笑顔も見られ，役員も満足感を味わうことができた。

★苦勞した点・工夫した点

- ・社会福祉協議会に行きポップコーン機と，わた菓子機を借用の場合は3カ月前からの受付開始なので早目に準備が必要。
- ・焼きそば用鉄板の清掃や餅米の事前準備が大変なので町会役員に苦勞をかけた。事

前に把握した以上に参加者が多く，飲食品が行き渡るか心配した。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑩ 幸谷親睦会【小通幸谷2区自治会】

★活動内容

- ・小通幸谷2区自治会（幸谷自治会）の住民交流を目的に幸谷親睦会を幸谷会館にて開催。

〔親睦会の内容〕

輪投げ大会、お楽しみ大抽選会、飲食（焼きそば、フランクフルト、焼き芋、ポップコーン等）を実施。また、費用のほとんどは馴染まちづくり協議会の応援金を活用。

★活動スケジュール・プロセス

- ・令和元年度の年間事業計画に基づいて8月18日の拡大役員（役員・班長）会議で9月22日の幸谷親睦会開催について具体的な内容について話し合いを実施。
募集方法、予算、会場、輪投げ大会の幸谷ルール、役割分担、抽選会賞品、飲食、雨天等・参加者募集は回覧やポスターまた、訪問により参加者を募る。
- ・開催1週間前に参加予定者リストを基に事前に役割分担表（主に拡大役員が実行委員）を作成配布し協力を依頼。
- ・9月22日開催当日は、午前7時30分実行委員集合し会場設営。午前8時食材の仕込み準備。午前8時30分受付開始。午前8時45分開会式。午前9時輪投げ大会開始。午前10時食材仕込み。午前11時食材配布。午前11時10分抽選会。午前11時45分表彰式。午前11時55分閉会式。午前12時会場後片付け。午前8時に実行委員2名で拡声器を持って「本日、親睦会開催」する旨、町内を巡回。



★活動の成果・課題

- ・当自治会は約110世帯である。普段、隣近所の交流や特に離れた住人との交流が少ない中、当親睦会を通じて話もしない人同士の交流ができた。
- ・実行委員以外の参加者で当日、自主的に手伝ってくれる人が増えた。
- ・年々高齢化が進みまた、子どもの減少等もあり参加者が減少。（親睦会開始当初は約80人、現在、約50人前後）

★苦労した点・工夫した点

- ・輪投げ大会のゲーム数、距離、得点等を独自に幸谷ルール決めた。
- ・参加者集め。
- ・輪投げ大会の応援のみの参加可としたことで高齢者や幼児の親の参加が増。
- ・輪投げの各賞は、全幼児に賞品、小学生は優勝～5位、残念賞品、大人は優勝～7位。
- ・抽選会では約半数の人に何らかの賞が当たるようにした。また、参加賞を用意。
- ・ほとんどの参加者に何らかの役割を持ってもらって全員参加型にした。
- ・輪投げの練習日を親睦会の前日に2時間程度実施。

◎幼児の部



◎小学生の部



◎抽選会



◎大人の部



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑪ 地域除草・防災訓練・防犯パトロール活動【中佐貫自治会】

★活動内容

（地域のすべての活動は住民のコミュニケーションを図る目的で実施）

- ①地域美化活動として梅香園や沖田堀周辺の除草作業を年4～5回実施。
- ②地域住民のコミュニケーションを重視した豚汁大会兼防災訓練の実施。仮設テント、仮設トイレの張り方、発電機による自家用水中ポンプの稼働訓練及豚汁や非常食を住民共同で作製、試食しながら交流を図る。（令和3年度は中止）
- ③地域住民が輪番制でリサイクル資源回収整理と自治会内防犯パトロールを実施。防犯パトロールは子どもの参加も歓迎し、月2回実施。

★活動スケジュール・プロセス

事業スケジュールは総会にて年間の予定を決定し活動時期は、その都度回覧版にて参加を募っており自由参加にしている。

リサイクル資源の回収整理と防犯パトロールは月2回の輪番制で地域住民が参加をできるように年度初めに決定し全員に通知している。

★活動の成果・課題

（令和2、3年度はコロナ禍の中、予定の活動が不可の事業があった）

- ①梅香園や沖田堀周辺の除草作業を実施し子どもたちの遊び場の確保ができた。
除草作業に中高生の参加を呼び掛けたが令和3年度はいなかった。
- ②防災訓練は仮設テントや仮設トイレの建て方の訓練や発電機による自家用水の確保ができた。豚汁大会では非常食の作り方、自治会所有の防災備品の展示を行い防災意識の高揚と住民の交流の場として機能

している。毎年70～80名参加しているが、単身者やアパート住民の参加促進がこれからの課題である。

- ③住民のリサイクル資源の整理は資源の回収の意識を高める事ができた。また、防犯パトロールは住民同士でエリア内の状況が確認できることがメリットである。

★苦勞した点・工夫した点

- ①除草作業は住民の交流の場でもあり中高生は防災の担い手でもあるので交流が大切と考え、ワンコインを支給することを考えたが参加者はいなかった。
- ②防災訓練も交流の場として豚汁大会を実施。一緒に豚汁や非常食を食し、御近所の様子を話し合った。
- ③防犯パトロールは輪番制であるが、子どもの参加も歓迎。

◎豚汁大会（令和元年度）



◎防犯パトロール（令和3年度）



◎梅香園除草作業（令和3年度）



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑫ お花見会【浅間ヶ浦自治会】

★活動内容

- 年1回、浅間ヶ浦自治会事業計画に基づき、3月下旬から4月上旬の日曜日に実施。
- お花見会を通して、新旧役員の交代に伴い、顔合わせ会を行う事で、互いの意思疎通が図られ、自治会活動に活気が戻り、行事を実施するも積極的に参加するなど、町内の風通しが良くなった。
- 各班、回覧やポスターにより、一般会員には参加募集を働きかけ、毎年多くの方が参加して自治会行事として盛大に開催されている。
- 新規加入会員に対しては、自己紹介を兼ねて紹介をしている。

★活動スケジュール・プロセス

- 事業計画に基づき、役員会議において、スケジュール・予算・役割分担等の確認を実施。
- 開催前日、役員及び会員の協力を得て会場の設営作業（テーブル・カラオケ・食器等）。
- 当日、出欠等の受付から始まり、女性部が準備した飲食物等がテーブル上に並べられて準備が完了、司会進行に基づき、会長挨拶・新規会員紹介等・お花見会祝宴開始。
- 出し物としては、主にカラオケ・ビンゴゲーム（出席者全員参加）など。

★活動の成果・課題

- 近年、隣近所の付き合いの少ない中、地域に密着したイベント行事を実施することにより、年代にとらわれず、誰もが参加しやすい環境作りをすれば、人は必ず集まってくるのではないかと。お花見会を楽しみにしている方も多く、参加者同士の絆も深まり自治会全体が明るく元気になり活性化が図られる。
- 飲食することにより、普段お話をしない人も、親密感を覚えることから、気楽に話せるなど、周りの状況が良く見えてくる。

★苦労した点・工夫した点

- 年々高齢化が進み、事前準備作業等は前日に高齢者がメインとなり準備するのが通例である（会場レイアウト・テーブル・椅子・座布団・飲食物・カラオケセット等）。工夫としては、任務分担を明確にし、各任務毎に事前会議を開き、予定を立てるなど、特に食べ物等の献立は手料理でなく、弁当やおつまみセットなど、手のかからない物を選定する事で、かなりの労力軽減が図られた。



◎会場



◎抽選会



◎2次会

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111